

富士山の熔岩洞穴

浜野一彦 (元所員 山梨大学)

最近富士山の熔岩洞穴の崩壊が目立ってきた。

青木ヶ原熔岩流が流れたのは貞観6~7年で、今から約1000年前。洞穴の大半は青木ヶ原熔岩流のなかにあるので、洞穴の生命も約1000年。なんだかはかない気がする。いずれすべての洞穴は崩壊して、中に入れないときが来るにちがいない。写真を撮るなら今のうちである。

洞穴の内部は大変面白い構造をもっている。さすがが自然のつくったもの。人間のつくったトンネルとはちがうところである。

これらの写真は山梨大学で10年にわたり撮ったものの中から選び出した。ただ、堅穴の縄梯子降下は洞穴研究会の会員の撮ったものかもしれない。

(撮影者 山梨大学: 田中 収・服部清二)
河西秀夫・戸沢義和



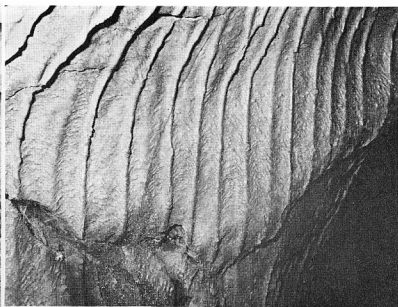
1. 本橋第一洞穴の入口部



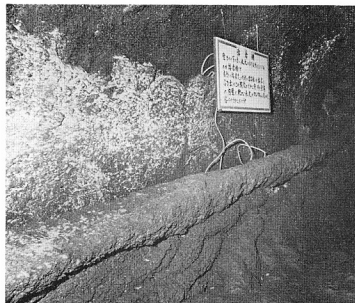
2. 熔岩洞穴の内部情況 両側にA型熔岩樹が発達している (万野洞穴 400m付近)



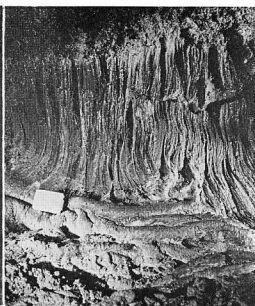
3. 洞穴壁にみられる熔岩のすじ（船津胎内）



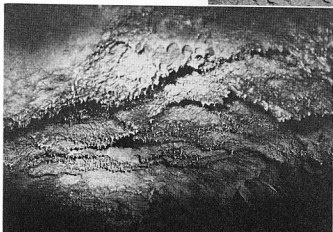
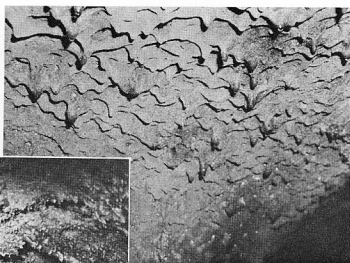
4. 洞穴壁にみられる熔岩のすじ（船津胎内）—熔岩鐘乳石が壁面に沿って流れたもので「筋」（あばら）の俗称がある



5. 熔岩棚（富岳風穴）
B型熔岩標が壁に沿って発達しているのがみえる



6. 熔岩棚（万野洞穴）
壁面が下方にずれたもので 写真下部で縄状を呈している



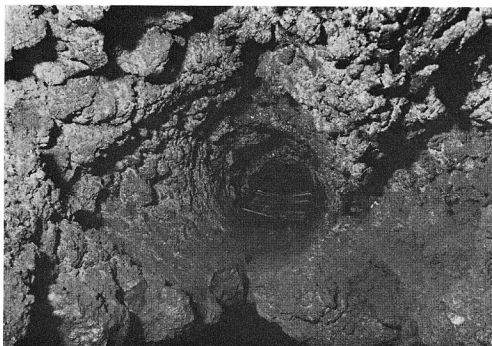
7. 熔岩鐘乳石(万野洞穴)
天井に発達するもので 鐘乳洞に発達する鐘乳石に形態が類似しているので この名称がある



9. 本洞と支洞の合流点(万野洞穴) 本洞と支洞のレベルが異なるのがわかる



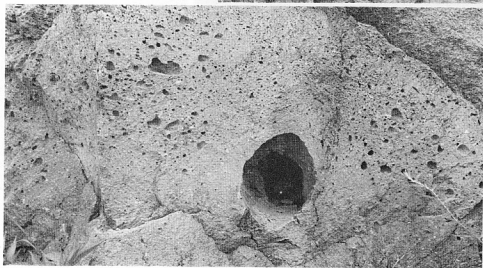
8. 天井にみられる窪み(富岳風穴)
一ガスが上方に圧入したものと
思われる



10. 熔岩樹型(船津船内)
船津船内は熔岩樹型が複合して形
成された洞穴であり これはその
1つである



11.
シヨレンドーム(西湖湖畔)
熔岩流中に含まれるガスの膨張によ
り形成されるもので 西瀬湖畔に多
くみられる



12. 大型気泡(西湖湖畔) 熔岩流の表層部には多数の気泡が発達する 写真中央の気泡の直径は
15cm 程度